

平成25年6月12日

茨城県くり生産者連絡協議会の総会開催される

平成25年6月12日（水）、茨城県農業総合センター大研修室において、各生産部会代議員の他、県産地振興課の市村課長補佐をはじめとする多くのご来賓、関係機関のご出席をいただき、25年度総会を開催しました。

川上好孝会長はあいさつで、農業をめぐる状況は依然厳しいなか、くりの将来は加工により生産者の収入を確保していかなければと、ゆるぎない持論を力強く訴えました。

また、来賓を代表し市村課長補佐は、「昨年度策定した果樹振興計画のなかでもくりは、なしと並んで本県を代表する果樹であり、特に加工品で付加価値を高められる。また、喫緊の課題であるクリシギゾウムシ対策にもしっかりと取り組みます。」と、協議会活動への支援と期待を込めたあいさつがありました。

議事は、藤崎 和夫氏（JA 土浦千代田栗部会）が議長となり、スムーズな議事進行のもと付議事項全てが可決されました。本年度の事業として、全国果樹研究連合会と本協議会の共催で、全国のクリ生産関係者が一堂に会する「全国クリ研究会 in 茨城県」が8月8～9日に開催されます。

報告事項では、アリスライフサイエンスから、ヨウ化メチルクン蒸導入に係る情報提供をいただき、県並びに園芸いばらき振興協会も一緒になっての支援が約束されました。

続いて、各部会の生産販売状況を報告していただき、生産ではヨウ化メチルクン蒸施設の設置、くり選果機の老朽化が引き続き課題であり、今後は生産部会間での共同利用の検討が、販売ではLサイズ以下の価格安定対策が必要となってきました。

記念講演は、生産者、関係者の関心の高い、くり加工品開発に取り組んでいるJA茨城中央の現況について、6次産業対策課長 山口氏から講話をいただきました。まだ、緒に就いたばかりの取組ですが、川上組合長の持論のもと高い目標をもって、現在、加工施設等を整備しています。当協議会としても施設見学を実施、一步先んじた取組を支援したいと考えています。

くり生産農家にとって、将来に向かっていろいろと考えさせられる半日になったことと思われま



会長あいさつ



報告事項を聞き入る参加者

